

FUN FAN なかの

楽しい! 大好き!

地域の架け橋となる 学生たち



副実行委員長
渡邊夏佳さん



実行委員長
中村洋介さん



副実行委員長
芦田祐夏さん

昨年11月3日に初開催された、国際交流運動会「Nakano Borderless」。多様な文化背景を持った人々が共に生きる「ボーダレスな(国境のない)中野」を目指して、明治大学国際日本学部山脇ゼミの学生たちが企画したものです。14か国の方が参加したこのイベントについて、実行委員の学生たちに話を聞きました。

—— 運動会を企画したきっかけは

中村: そもそもは、2018年に東京都主催の多文化共生プレゼンコンテストで発表した企画なんです。

芦田: 日本人と外国人が言葉の壁を越えて交流するには、運動会が最適だと提案し、最優秀賞をいただきました。

渡邊: その時は、実現までは考えていなくて。でも、プレゼン内容を山脇ゼミ主催の「なかの多文化共生フォーラム」で発表したら、参加していた中野区長や中野区観光協会理事長などから、「ぜひ実現を」と後押しされたこともあり、昨年の1月ごろから動き始めました。



▲会場は明治大学附属中野中学・高等学校校庭

—— 実施までの道のりはどうだった

中村: それからが大変だったよね。僕たち全員4年生なので、ちょうど就職活動も重なってたし。

芦田: そうそう。実行委員会設立や補助金申請など初めての手続きが盛りだくさんで、四苦八苦しました。

渡邊: そんな時、地域のみなさんが親身になってアドバイスしてくれたのがとてもありがたかったです。

中村: 書類の書き方や集客のノウハウを教えてください、会場借用のために尽力いただいたり、中野に関わる多くの方が支えてくれました。

芦田: 例えば、困っていることをAさんに相談すると、「じゃあ、こういう人がいるよ」とBさんを紹介してくれ、さらにBさんがCさんをとった形で人と人とのつながりが広がったよね。

渡邊: なかなか参加者が集まらなくて苦労していた時も、チラシを配る場所を紹介してくれました。



—— 運動会に来た人の反応は

中村: 当日は、総勢157人が参加。そのうち、外国人34人と日本人49人が5チームに分かれて障害物競走や綱引きなどで競いました。

芦田: 小さなお子さんがいる家族や学校の友達同士など幅広い年齢、職業の方が集まってくれたね。

渡邊: ささまざまな国籍の人と交流できるよう、チーム分けを工夫しました。日本語学校の留学生が、次の企画があったらまた参加したいと言ってくれたのがうれしかったな。

芦田: チーム内で自発的にお互いの連絡先を交換している人たちもいて、国際交流の一端を担えたと思いました。

中村: アンケートでもまた参加したいという回答がたくさんあって、手応えを感じましたね。

渡邊: 最後は全員で盆踊り。サンバのリズムで炭坑節を踊って大いに盛り上がりました。

—— 中野の印象は変わりましたか

芦田: 入学したての頃は「サブカルのみち」というイメージだったなあ。

渡邊: 私も。最初は中野駅とキャンパスのある中野四季の森公園周辺しか知らなかったしね。

中村: 僕もそうだった。だけど、今回いろんな人と関わりを持って「古き良きまち」だと感じたな。人と人とのつながりが濃くなった。

渡邊: たくさんの方の温かさを感じました。卒業してもOGとして、今後の活動に関わりたいですね。

中村: うん。本当にそう思う。今回の企画にも多くのOB・OGが手を貸してくれました。

芦田: 実は、今年度のプレゼンコンテストでも最優秀賞を受賞したんです。この中で提案した企画が実現に向けて動き出したら、ぜひ、中野のみなさんとのつながりを下級生にもつなげたいですね。



▲山脇ゼミのみなさん



留学生から見た中野

運動会当日は、司会を担当。参加した子どもたちが友達感覚で接してくれて、まさにボーダレスだと思いました。

中野は「人の情にあふれているな」と感じます。以前、レンガ坂にあるお店を紹介したくて、許可を得に伺ったら、他にもおススメのお店があるよと、いろいろなお店を教えてくださいました。みなさん本当に親切ですね。

山脇ゼミの韓国人留学生

イスンジュ
李永注さん



中野の多文化共生のまちづくりに少しでもお役に立てたらうれしいですね

山脇啓造教授

